

2022年度

自己評価報告

2023年11月

学校法人トラベルジャーナル学園
ホスピタリティ ツーリズム専門学校大阪

I 学校の教育目標

1. 学校の概要、目標

(1) 学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色について

①教育理念

グローバルな視点を持ち、
職業現場でホスピタリティを実践し、
人と社会に貢献できる人財を育成します。

②教育方針

私達は、ホスピタリティ産業で求められるプロフェッショナルを養成するため、4つの教育を行います。

1. 相手の立場に立って行動できるホスピタリティ教育
2. 職業現場で活躍できる職業実践教育
3. 生涯にわたって、教養を高めて、自己啓発ができる動機づけ教育
4. 地域社会、国際社会で役割を果たせるグローバルな教育

II 自己評価総括

本学自己評価のメンバーは、以下の通りである。

常務理事・学校長：高田 直樹

理事・総務部長：大内 明男

広報部次長：田畑 ゆかり

教務部次長：小澤 和哉

教務部課長代理：宮地 理賀

教務部課長代理：古内 美沙

本学の自己評価は、平成25年3月に文部科学省生涯学習政策局発行が発行した「学校評価ガイドライン」に準拠したものである。

各設定項目に対しては、概ね「適切」であるという結果となった。これもひとえに、関連業界はもちろん、多くの卒業生や教育機関各位の協力の基に成しえたことであり、この場をお借りして感謝の意を表したい。

この結果に慢心せず、業界との緊密な連携の基、さらなる高みを目指していきたい。

Ⅲ 評価項目の達成状況・取組状況

1. 教育理念・目標

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
②	学校における職業教育の特色があるか	4
③	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
④	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
⑤	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

【評価項目に対する現状と課題、改善策など】

今後、世界各国から様々な方が多数訪日されることを想定し、英語や手話などの接客能力向上の為に科目を導入強化し②を評価4とした。また③に関しては変化に対応する為に、学校再編や新学科、新規事業を学内プロジェクトにおいて検討するなど、業界ニーズの獲得を行っており、評価4とした。

今後も観光業界の変化やニーズを捉え、従来の職業教育に加え時代の変化に即した柔軟なカリキュラム編成の推進を図るとともに、様々な状況に対応できる人間力の高い人材を育成すべく、各科目の到達目標、目的の周知を行っていききたい。

2. 学校運営

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
②	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
③	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
④	人事・給与に関する規定等は整備されているか	4
⑤	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4

⑥	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
⑦	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
⑧	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

【評価項目に対する現状と課題、改善策など】

本学においては、年度毎に学園理念に基づいた事業計画を部門単位で策定し、理事会において実施状況の精査が行われている。また意思決定の流れや人事給与規定・個人情報保護・研修に関しては総て就業規則・規定集・内規・学園内通達等において規定され、組織的に取り組んでいる。

⑧は基幹システムにより、入学から卒業までの学籍を一元管理している他、学園全体の情報共有を目的としたグループウェアと、担任と学生が相互に活用できるコミュニケーションツール及び授業支援アプリ（ロイロノート・スクール）を導入し、情報の一斉配信や限定した情報発信が可能となり、効率化を図ることができたため評価4とした。

今後も学生への連絡やコミュニケーションの手段としてのITツールを研究し、適切な距離感を保つ工夫も意識しながら実践していく。

3. 教育活動

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
②	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
④	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
⑤	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
⑥	関連分野における実践的な職業教育（産学接続によるインターシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
⑦	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
⑧	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4

⑨	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
⑩	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
⑪	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
⑫	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
⑬	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	3
⑭	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

【評価項目に対する現状と課題、改善策など】

本学の編成するカリキュラムに関しては、学園の教育理念と社会経済の変化を考慮し、ホスピタリティをベースに社会人として必須の能力を「共通科目」、対象業界で必要とされている専門の能力を「専門科目」と位置づけ、各科目の学習目標や評価方法、取得目標資格をシラバスに明記して全学生に履修させている。カリキュラムの編成は、各業界出身者または業界から派遣された講師が実施している。

④について、今後の業界における IT および AI 活用の必然性から、2021 年度より全科へタブレット端末を導入し、テキスト等教材のデジタル化や授業支援アプリを活用し、教材の配布や質疑応答をタブレットで行う等の工夫を実践しており、評価 4 とした。

⑤に関しても評価 4 とした。業界で求められている人材教育について企業様と意見交換を年 2 回実施し、カリキュラムの作成・見直しを行っている。

⑥は評価 4 とした。各科が実践的に実施している職業教育は下記の通りである。

科	実践的職業教育（産学連携・実技・実習など）
旅行科	企業実習（2 年次夏期：旅行会社及び観光施設 4 社において、旅行受付及び事務業務、案内業務を実習）
鉄道科	企業実習（1・2 年次夏期：鉄道会社 4 社において駅務、車内販売スタッフ、車両清掃スタッフ、テーマパーク 7 社において案内・販売スタッフとして実習）
エアライン科	企業実習（1 年次夏期：航空会社 6 社においてグランドスタッフ、航空貨物、機側ハンドリング、機内ケータリングの各業務の実習）
ブライダル科	企業実習（1,2 年次土日祝通年：ブライダル 14 社にて、婚礼サービス、受付業務を実習）

ホテル科	企業実習（1年次夏期：ホテル15社において宿泊業務・料飲業務の実習） （2年次夏期：ホテル11社において宿泊業務・料飲業務の実習） （2年次冬期：20社において宿泊業務・料飲業務の実習）
テーマパーク科	企業実習（1,2年次通年：テーマパーク8社において、案内・販売スタッフとして実習）
ダンス・エンターテイナー科	企業実習（2年次前期。テーマパーク1社演出家のスポット授業を4回実施。パーク閉演後、実際のパーク内劇場でショーを実演。観客はパークスタッフに）

⑦は評価4とした。各科が外部関係者から評価を取り入れて実施している職業教育は下表の通りである。

科	外部評価を取り入れている職業教育
旅行科	国内旅程管理主任者研修（ツーリストエキスパート）、地域創生デザイン（全国農協観光協会）、海外観光プランニング企画・提案（エヌオーイー）、世界遺産研修（大阪府青少年活動財団）
鉄道科	鉄道安全体験研修（JR東日本総合研修センター）、駅業務体験研修（JR西日本）、鉄道技術職職場見学（南海電鉄）
エアライン科	スキルコンテスト（エアライン企業13社）、接遇おもてなし研修（ジェイエア）
ブライダル科	ブライダルフェア企画（クレ・ドウ・レーブ） ブライダル発表会（ブライダル企業24社）
ホテル科	レストランプロデュースメニュー提案（ANAクラウンプラザホテル大阪）、チームビルディング これからのホテル福利厚生提案（W大阪、ホテルグランヴィア大阪、オリックスホテルマネジメント、伊勢志摩ホテルマネジメント）、料飲スキルコンテスト（ANAクラウンプラザホテル大阪、ウェスティンホテル大阪）
テーマパーク科	テーマパークサービス提案（キッザニア甲子園）
ダンス・エンターテイナー科	エンターテイメントショー参加（鈴鹿サーキット）

⑫の評価を4とした。2018年度よりエアライン系を中心に3社の業界企業と出向契約を結び、現役で業務を行っている社員を講師として受け入れ、授業および担任業務・就職指導まで担当させている。授業満足度の向上のみならず、産学連携強化による就職強化を図ることができている。世間に認知のある企業との繋がりを対外的に見せることにより学生募集の強化にも繋がっている。

業界全体へのアプローチ強化策として、今後も引き続き、業界における職業実践の場を提供いただけるよう各企業様へ依頼を行うと共に、週末や放課後を活用した継続的なインターンシップに加え、夏期・冬期休暇期間中の短期インターンシップなど、柔軟な制度を構築していきたい。

4. 学修成果

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	就職率の向上が図られているか	4
②	資格取得率の向上が図られているか	4
③	退学率の低減が図られているか	4
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
⑤	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

【評価項目に対する現状と課題、改善策など】

就職指導については、各業界を担当に持つ専任スタッフが業務として行い、求人情報の獲得・学内説明会の誘致・学生への個別指導等を実施している。2022年度の就職希望者に対する就職決定率は98.4%(前年度98.6%)、卒業生数に対する進路決定率は98.5%(前年度96.3%)と高水準を維持しているため、①の評価は4とした。

②資格試験については「共通科目」の中で全学生が取得目標とするものと、各科で取得目標とするものに分けて資格取得を奨励している。

③退学率は1.7%(前年度6.4%)から改善した。更なる退学率の低減を図るべく、2022年度から教職員が学生の精神面をケアすることを目的とした「公認心理士によるカウンセリング講座」を受講(来校しての計18回対面講座)。トラベルジャーナル学園大阪で計5名が受講終了証を受けた(メンタル不調者に対するコーチング手法を実際に体験し、「実際のケースでの対応」に対し、自信を持って臨む事ができる職員を養成できた)。次年度も拡大して受講予定である。

④⑤卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価の把握・卒業後のキャリア形成への効果把握については評価3とした。卒業生に対する就業定着フォローにつき、卒業後1年間は定期的に連絡を取り、問題の早期発見に努め、社会人としての自立を促している。今後は、卒業生に定型アンケートを送り、「どの科目は実際に役立っているか」を把握していく。

5. 学生支援

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
②	学生相談に関する体制は整備されているか	4
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
⑥	学生の生活環境への支援は行われているか	4
⑦	保護者と適切に連携しているか	4
⑧	卒業生への支援体制はあるか	4
⑨	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
⑩	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア・職業教育の取組が行われているか	3

【評価項目に対する現状と課題、改善策など】

- ・ 学生生活全般や就職に関しては担任、学費・住居・保険に関しては総務部、進路・就職に関しての包括的な相談窓口としてキャリアカウンセラーと、各種の相談体制をとっている。
- ①に関しては、各業界を担当に持つ専任スタッフが業務として行い、求人情報の獲得・学内説明会の誘致・学生への個別指導などを実施している為、評価4とした。
- ②は教職員のカウンセリング講座受講で全教職員が様々な問題を抱えた学生に対応できる体制を構築しつつある為、評価4とした。
- ③に関しては総務部学生課職員が「学費コンサルタント」として、学生の経済的および生活環境への支援・相談に応じている為、評価4とした。
- ④の学生健康管理は、学生課主管でX線撮影までの健康診断を実施し、同部署で保健室の管理も行っている為、評価4とした。
- ⑦の保護者連携に関しては、学生の成績表を送付し学習状況を報告すると共に、出席率の芳しくない学生や内面に問題を抱えている学生などの保護者には「個別に相談し問題を共有する」体制をとっており、評価4とした。
- ⑧の卒業生への支援は「就業斡旋」の他、卒業後も担任が相談に乗る関係が築かれている他、同窓会組織の設立・卒業生向け機関紙の発行もあり卒業後の交流も盛んな為、評価4とした。
- ⑩の高校との接続に関しては、校内進路説明会以外でも高校から当校へ来校して行う学校見学会や、高校からの依頼による進路講演・卒業生講演・マナー指導・面接指導等の実施実績がある。また、観光分野における高専接続教育実施に向け、観光系科目・コース設置高校や通信制高校への企画提案を行っているところである（評価3）。

6. 教育環境

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4
②	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
③	防災に対する体制は整備されているか	3

【評価項目に対する現状と課題、改善策など】

①については、ホスピタリティ産業に特化した専門学校として、観光学科・ブライダル学科・ホテル学科・テーマパーク学科を有しており、学内に演習・実技施設を有しており、評価4とした。

- ・観光学科 旅行カウンター実習室 旅行プランニング実習室 鉄道実習室 鉄道運転シミュレーター エアラインモックアップ
- ・ブライダル学科 ウェディングチャペル ブライダルサロン フィットTINGルーム
- ・ホテル学科 フロント実習室及び客室 レストラン実習室 バンケットルーム
- ・テーマパーク学科 テーマパーク実習室×2 コスチュームルーム
- ・その他 PC 教室×4 図書室 学生ラウンジなど

②に関しては、企業実習・課外活動・成果発表・研修旅行(国内外)・海外留学(シアトル、台北)などをカリキュラム編成すると共に、就職先の拡大を海外まで広げており、評価4とした。

③の防災に関しては、防災マニュアルを見直と共に備蓄品も確保し備えているものの、東南海地震への備え及び地域一帯での連携などの課題に対応していく必要がある。

7. 学生の受入れ募集

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	学生募集活動は、適正に行われているか	4
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
③	学納金は妥当なものとなっているか	4

【評価項目に対する現状と課題、改善策など】

①及び②に関しては、募集開始時期やパンフレットの記載内容等、関係機関との申し合わせ

に基づき適正に実施されている。教育成果に関しても、事実や実績に基づいた正確な情報をホームページや追加送付物等で適宜発信している為、評価4とした。

③は本校の教育内容を鑑みて妥当なものと判断する。

8. 財務

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
③	財務について会計監査が適正に行われているか	4
④	財務情報公開の体制整備はできているか	4

【評価項目に対する現状と課題、改善策など】

①に関しては、無借金による学校運営を実現しており、中長期的にも盤石な体制となっている為、評価4とした。

②に関しては、部門毎・月次毎の予算・実績精査が役員会において毎月精査が為されており、有効かつ妥当なものとなっている為、評価4とした。

③は監査法人の公認会計士による監査を実施しており、評価4とした。

④は2013年度より公開しており、評価4とした。

9. 法令等の遵守

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
②	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
③	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
④	自己評価結果を公開しているか	4

【評価項目に対する現状と課題、改善策など】

①～④は総て評価4とした。

本校は法令順守と適正な運営を実践している。また、2018年度より新たな教職員の倫理規定を定め、人権(ハラスメント)や情報漏洩(SNSなど)など、教育者として守るべき規範を定めた。個人情報に関しては、就業規則で規定している他、PCセキュリティの設定・学生と教職員のネットワーク分離など不正アクセスと情報漏洩を防いでいる。

自己評価も毎年実施している。

10. 社会貢献・地域貢献

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
②	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
③	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3

【評価項目に対する現状と課題、改善策など】

①～③

当項目については、近隣町内会等からの要請で、学生も学習成果発表として参加したフェスティバル等を実施し好評をいただいている。また、地域貢献チームで地域清掃活動も実施しているため、総合的評価として適切であると考えている。

11. 国際交流

(1) 項目評価

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4
②	留学生の受入れ・派遣、在籍管理などにおいて適切な手続き等がとられているか	4
③	留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
④	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4

【評価項目に対する現状と課題、改善策など】

①～④外国人留学生の受け入れは、募集・教育・事務部門のそれぞれで留学生の担当者を置いている。募集に関しては日本語学校との連携、入学後は担任による学習や生活の指導、就職は各業界の専任スタッフが指導を実施している。また、学生課では入国管理局と事務折衝を実施している。日本人学生の海外派遣に関しては留学を制度化しており、アメリカ(シアトル)・台湾(台北)に現地法人を設立し、毎年留学生を派遣している。

以上により評価4とした。

以上